

東京オリパラから、2026 アジア競技大会に向けて

愛知県重度障害者団体連絡協議会

〒466-0037 愛知県名古屋市昭和区恵方町 2-15

助成事業の概要

2026 年愛知県下では、アジア競技大会が開催されます。2021 年に開催された東京オリパラのレガシーを引き継ぎ、2021 年度から日社済の助成を受け、アジア競技大会に関するシンポジウムを企画。様々な専門家から登壇いただき、バリアフリー社会の重要性を伝え、メイン会場となる瑞穂陸上競技場周辺において、重点整備地区に指定、地下鉄瑞穂運動場西駅の大型エレベーター増設等が決まりました。

2023 年度は、この取り組みを愛知県内に目を向け、競技が行われる予定地域をピックアップし、バリアフリーという観点から、パラアスリート、各専門家等を招き、シンポジウムを開催します。講演では、パラアスリートから、スポーツの楽しさ、魅力などの体験談を、シンポジウムでは、現在までの競技会場および周辺のバリアフリー整備状況と今後どのように展開していくかを語っていただき、アクセシビリティガイドライン制定に向け、さらなる共生社会の実現に向けた取り組みを目指します。

事業の成果

今年度のシンポジウムを開催して実感したことは、計画段階からの様々な視点と当事者参画を重要視した上で、一緒に作り上げていくことを行政及び市民にアピールできたことが成果でした。名古屋市でのメイン会場周辺の交通アクセスなどの環境整備に当事者の意見を取り入れていただき、

計画を進められており、名古屋のメイン会場周辺のみならず、愛知県下各会場周辺のバリアフリー化が必要です。地域の方や、行政の方が、一緒に環境を作る大切さを伝えることができました。さらに、欧米などのスポーツをする環境についても、インクルーシブな状況が当たり前となっていることが素晴らしいことも伝えることができました。バリアフリー化に関しては、今回の愛知でのアジア競技大会・アジアパラ競技大会、東京オリパラ 2020 の新国立競技場建設に障害当事者が参画したように、まちづくりにおける好機を逃さないようにアンテナを張っておくことの重要性、誰にとっても利用しやすい環境へ変えるためには障害当事者の声だけでなく、議員の方や行政の方、事業者の方、様々な立場の方がお互いに補完しあい、協力し合うことで実現できることを改めて感じることができました。障害有無なく、誰もが、好きな席でスポーツ観戦、コンサート、イベントに参加することができる日がくることを願い、声を出していきます。これから始まる計画ですが、計画を当事者参画の上で攻めていき、当事者の参加があることでより、バリアフリーな環境が出来ると感じました。東京オリパラ 2020 のレガシーを受け継ぎ、障害当事者や各市民団体が委員となり、アジア競技大会・アジアパラ競技大会 Aichi - Nagoya アクセシビリティガイドライン 2026 が策定されました。このガイドラインが架け橋になり、誰もが楽しめる大会になることを願います。

成果の広報・公表

- ・開催地区とのネットワークの構築
 - [1] 岡崎市：岡崎市社会文化部スポーツ振興課、地元団体、地元議員
 - [2] 刈谷市：刈谷市教育委員会教育部 スポーツ課、地元団体、地元議員、企業

- ・「Aichi - Nagoya アクセシビリティガイドライン 2026」策定
 - [1] 委員会への参加

- ・アジアパラ競技大会組織委員会とのネットワーク構築
 - [1] 刈谷市開催会場調査提案
 - [2] 第 5 回アジアパラ競技大会 杭州 情報共有

- ・各競技施設及び交通アクセスの調査、説明会
 - [1] 業者との懇談及びモックアップ
 - [2] 現地調査及び報告会

検証し、みんなでよいものをつくっていくことと「Aichi - Nagoya アクセシビリティガイドライン 2026」の大切さを伝えていきます。この大会がきっかけで、インクルーシブな社会、地域間格差をなくすことを目指します。

今後の展開

日社済様からの助成をいただいたことにより、3 回連続でシンポジウム開催することができ、障害ある方々への社会参加として、誰もが住みやすいまちづくりを掲げ開催した結果、社会啓発及び行政機関や事業者とのネットワーク構築という成果がうまれたと考えられます。

社会が様々な状況で動くとき、2026 年に『リニア開通』もあり、『アジア競技大会・アジアパラ競技大会』が開催されることから、大きく変わっていきます。その中で、誰もが住みやすい社会をかけることの重要さ、このシンポジウムで、ハードとソフトの面プラス、ハート（意識）を取り入れることで、社会に当事者参画の上、伝えていける場ができ、それを地域活性化のため社会全般で